



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 24 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2024 年 9 月 15 日（日）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：4 名（ディベーター 3 名、ジャッジ 1 名）

はじめに、今回キーノートスピーチをいただく講師の先生の紹介が行われました。今回のキーノートスピーチは NPO 法人 WELgee 代表理事・新公益連盟 理事の、渡部 カンコロンゴ 清花 氏です。NPO 法人 WELgee は難民へ就労支援・キャリア支援を行っています。そして、関連した論題が出題され、ディベートがスタートしました。

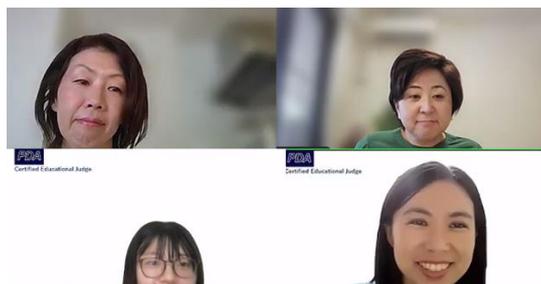


ディベートの様子

ディベートの様子

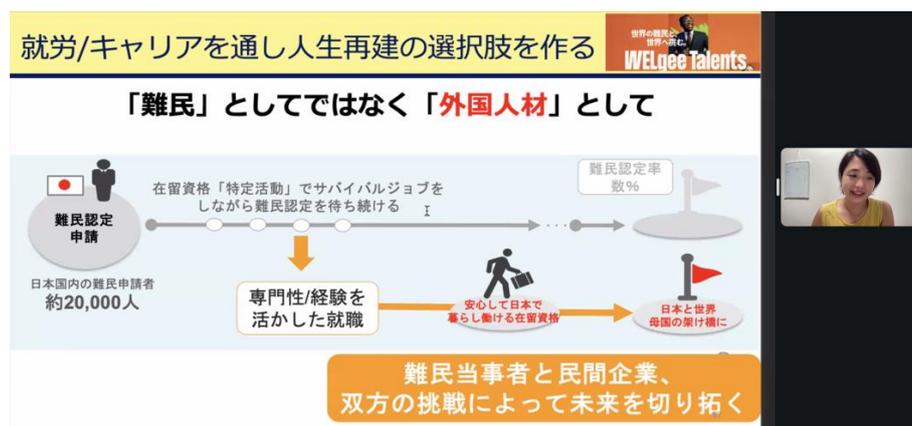
今月のキーノートディベートの論題は、“**Japan should accept more refugees. (日本は難民をもっと受け入れるべきである。)**” でした。肯定側は日本の道徳的義務や文化的強化や外交上の利点について、否定側は日本への経済的負担や、難民にとって良い環境が整っていないことによる問題点について述べました。すでに難民を受け入れている国の事例も飛び交い、争点が明快なディベートとなりました。

ディベートが終わると、ディベートをすることで明らかになった難民をめぐる疑問点などについて話し合いました。その後ジャッジより勝敗とフィードバックが伝えられました。



ディベート・ジャッジの様子

ジャッジによるフィードバックを終えると、渡部 カンコロンゴ 清花 氏よりキーノートレクチャーを通して難民をめぐる現状やその背景、支援などについて具体的にご解説いただきました。日本の難民認定率はとても低く、難民申請後、その認定を待ち続ける生活や、就労するにあたって直面する課題などなかなか知ることができない内容についてご講義いただきました。質疑応答のあとは、ディベートの内容に対するフィードバックを現状と絡めてご説明いただき、学びの相乗効果を実感する機会となりました。



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・「難民認定されることがゴールではない」というお話にとっても感銘を受けました。また、ディベートのなかでは知らないが故に具体的にスピーチすることができなかった難民の方のバックグラウンドや日本に来てからの生活、その困難などを知ることができてよかったです。ありがとうございました。
- ・授業でも扱ったことのある話題でとても興味深いキーノートディベートとなりました。ありがとうございました。
- ・日本で未就学になっている外国にルーツを持つ子どもを支援したいと思っています。日本と海外をつなぐ貴重な存在だからこそ、日本・海外でも通用するような教育の場を提供できればと思っています。現在、国際バカロレア（IB）教員免許の取得を目指しています。仕事・育児とアップアップ状態ですが、いつか渡部さんのような活動に少しでも貢献できればと思っています。本日は誠に有難うございました。